

だいちょう

令和6年12月2日
岐阜市立加納幼稚園
園長 藤井 佐由美

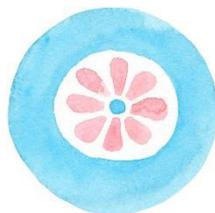
東京からの視察、保育を語る会での多数の参観者の中で 子どもたちは夢中になって遊びました。

11月15日には、東京から3名の視察があり、11月28日には、「保育を語る会」の開催により、40名を超える参観者が、加納幼稚園を訪れました。参観者に取り囲まれる中、少し緊張気味の子どもや、いつもと変わりなく自分のペースで遊ぶ子ども、いつもより張り切ってお客さんを喜ばせようとワクワクしながら奮闘する子どもなど、様々な表情を見せてくれ、やはり、子どもたちは夢中になって遊んでいました。参観者の感想の一部（抜粋）をご紹介します。

- ・環境設定が、子どもたちの気持ちや目線、興味関心に添っており、『遊びたい気持ち』が十分に保証され、大変豊かでした。先生方の『子どもたちの(が)』という想いがあちこちに込められており、園全体が『子どもたちの場所』になっており温かでした。(中略)
- ・公立の幼稚園さん、保育所さん、私学の保育園や幼稚園、(すべてこども園、幼児園含み)、それぞれの良さを活かしながら、子どもが安心して『遊びこめる・子どもたちの場所』になれるといいなと感じました。
- ・公開保育中はなかなか、読み込めない『指導案や研究の取り組み』ですが、公開保育・担任の先生のお話・対話タイム・松本先生のお話の後、読ませていただくことで、『教師の願い』や『葛藤』の部分がすごく伝わり、そのうえで、できれば今日も保育参観させていただきたいくらいです。(自分の園のことをやりなさいという感じですが...)。学ばせていただいたことを、自園の職員で共有させていただき、出来ることを一緒に探しながら取り組んでいきたいです。
- ・お昼に流していただいた動画がとても、ほっこりしました。園長先生のナレーションが先生方の子どもたちを受け入れる(受け止める)愛情いっぱいな部分が伝わってきました。加納幼稚園さんの YouTube、教職員で早速拝見させていただきます。
- ・見られている子どもたちは、きっとストレスも感じたことと思います。大切な『幼児教育』の現場を公開していただき、また、実際に保育に携わる先生方もお話を聞かせてくださり有り難うございました。次回の公開保育も楽しみにしています。
- ・今日この保育を語る会に参加して、たくさんの刺激を貰うことが出来ました。保育を参観させてもらう中で、子ども達がのびのび遊んでいる環境や、集中して工作に打ち込む姿を見て、環境が整っていると子どもはこんなにも楽しそうに、しかし集中して遊び込むんだなと感心しました。またほかにも、のこぎりや針など本来危険で子どもには触らせないとされているものも、当たり前のように子どもたちが使っている様子を見て、子どもたちを大人の常識で計ってはいけないなと改めて気付かされました。子どもだからできない、小さいから危ないからと制限するのではなく、やってみたい!作りたい!という子どもの気持ちを実現させるために、環境を整える保育者の姿を

自分も見習いたいなと思いました。沢山学ぶことが出来て良かったです。ありがとうございました。

- ・保育参観をさせていただき、子どもたち一人一人が伸び伸びと遊んでいる姿、先生方も一緒になって楽しそうに遊んでいる姿を拝見して、衝撃を受けました。先生方の子どもたちに対する眼差しや、声のかけ方など、温かい雰囲気の中で包み込まれているなど感じました。また、必要以上に声をかけるのではなく、タイミングを見ながら声をかけたり、一緒になって考えたりしていく中で、子どもたちが満足いくまで遊び込む経験を積み重ねていることがよく分かりました。一見、危険だと思われることでも、保育者の陰ながらの援助を受けながら、子どもたちも安心して取り組んでいる様子が見受けられました。本日は貴重な時間をありがとうございました。
- ・今日の保育見学を通して、子どもたちが十分に遊び込むために保育者も共に遊ぶことの大切さや、物的環境・人的環境の大切さを改めて感じた。ただ知識を与えるだけでなく、子どもと同じ目線で遊びを楽しみ、その中で一緒に考えたり試行錯誤することが子どもの遊びの発展や遊びが深まることに繋がると思った。また、十分に資材が用意され心ゆくまで作れる環境も素敵であるが、保育者がさりげなく支えたり、絶妙なタイミングで声をかけたり、遊びの妨げになる事なく保育をしている姿がとても印象的であった。特に印象的だったのが、どの保育者も否定的な言葉をかけることなく、肯定的であったことである。
- ・普段の保育の中でダメ、危ない、やめてなどつい否定的な言葉を使いがちであるが、脳内で置き換え、肯定的に声かけられるようにしていきたいと思った。今後の保育で真似できるところは真似し、自分たちの園でできる遊びこめる環境を子どもと共に考えていきたい。
- ・子どもたちのたくさんの笑顔と、先生方の温かく見守り、一緒に楽しんだり喜んだりする姿を拝見できた今日の公開に、感謝申し上げます。
- ・子どもたちの「やってみたい」に寄り添って行われる数々の活動や環境設定にただただ驚いた、というのが正直な感想です。どうしても、「やったら面白いけど、危ないし・・・」「これをやったら、きっとこうになってしまうのではないか」と考えがちなことを反省すると共に、「もっと子どもに任せていい」という思いになりました。
- ・小学校では、どうしても“制限”の中で活動を考えたり、活動に“制限”を設けたりして、子どもたちの「やってみたい」に寄り添えていない部分が多いように思います。教科書の内容に頼りすぎる面が多く、こちらから与えることが多いのも実情だと感じました。空間的な制約があるのが苦しい所ですが、教育課程も踏まえて、授業内容をもっと柔軟に考えることが必要なのではないかと感じました。1年生に限ったことかもしれませんが、体を動かしたり、制作をしたりする活動の中で、数や文字の学習をする、というような、国語、算数と体育や生活の学習を組み合わせた学習があってもよいように思います。
- ・価値づけることは、学校で大切にされてきたことで、保育の現場ではそれが児童に必ず資するものではないとの考え方があなかで、小学校としてこれからどうしていけば良いのか難しく思っています。
- ・保育で大切にしている夢中になることを小学校では、遊びから教科の内容にしていきたいとは思いますが、やっぱり中心にあるには遊びだと思っています。低学年の授業だけでなく、生活指導も遊びになるように、考えていきたい。





テクノランドの高校生が帰ってきたよ！



年長児を中心に、車、電車、ヘリコプター、自衛隊ヘリ、バイクなど、牛乳パックや空き箱などの資材に、ガムテープや割りばし、ストローなどをうまく使って「より本物っぽく仕上げたい」という願いを叶えるべく、根気よく仕上がっています。夏祭りのころからずっと、「自動で車を走らせたい！」という願いを持ち続けており、これまでも、①紐でひっぱって車を動かす ②ゴムではじき飛ばす ③ホースリールで紐を巻いて、車が自動で動いているように見せかける ④小型リールを作成して、紐を巻

いて車を引き寄せる ⑤紐を一連の輪にして、ふたつの電車を貼り付け、一つを動かすともう一つの電車が自動で動くように見せかける ⑥ラップの芯や塩ビ管パイプなどに紐を左右逆回転に巻き付け、片方の紐の先に車を貼り付け、もう一つの紐を引くことで、逆回転の紐が巻き取られ、車が自動で進む仕組みなどなど、仕組みや素材、大きさ、形、壊れない頑丈さなどを工夫し、試行錯誤しながら遊んできました。途中、香川県丸亀市城乾こども園さんとのオンライン交流もあり、瀬戸大橋を知った子どもたちが心を動かされ、海の上を渡る橋の上には道路、下には線路があるという珍しい橋に興



味を深め、図鑑で調べながら、瀬戸大橋をイメージして道路と橋を作ってきました。

「もっと、本物の自動っぽく走らせたい！」と願う子どもたちと、「テクノランド」の動画を見て振り返り、高校生が「どうやって車や電車を自動で動かしていたのか」を尋ねると、「電気力で動いている」ということを思い出し、やっぱり「電気力を使って車を自動で動かしたい」という願いが諦められませんでした。「電気力って何？」ということで、幼稚園のいろいろな

ものを使って「電気がつくか、つかないか」の実験を始めることになりました。テレビのリモコン、段ボール、布、折り紙（銀色は電気を通すけど、金色は電気を通さないんですよ。知っていましたか？）と、様々なものを試すうちに、「銀色の物なら電気がつくんだ！」と関係性を見付けていきました。そのうちに幼稚園中の銀色を見付けては、「これはつく」、「これはダメだ」等、〇×を付けるようになりました。

「銀色って言っても、なんでも言い訳じゃないんだ！」と更に探究心を深め、日を変えてまた実験を繰り返し、大人も知らない間に、幼稚園中のいろいろな場所や物に、〇×が貼られていました。「いつの間にこんなところまで、実験したんだ?!」とその様子が思い浮かび、クスッと笑ってしまうほどでした。今でも貼ってあるので探してみてください。遊戯室にも廊下にも階段にも園長室にもちいさなおうちにも玄関にも貼ってありますよ。



でも、「電気の力を使ってどうすれば車を走らせることができるのか分からない。」「僕たちだけでは



できないよう。」などの声が漏れ聞こえ、どうしようと相談しました。その結果、岐南工業高等学校の生徒さんに聞いてみる
ことになり、オンライン交流で、「教えてほしいこと、手伝って
ほしいこと」を伝えました。すると、高校生の皆さんは、「モー
ター」を使うこと、「モーターは、電気の力で回転することが
でき（回ることが分かるようにカラフルな丸い紙を付けて見せて
くれました）、それをタイヤに付けることで車が自動で走ること
ができる」ことを教えてくれました。

しかし、モーターや部品を揃えるのに300円も必要ということが分かり、「こども会議」をした結果、
「私は、お家で働いてお小遣いをもらっているよ。」という子どもがいて、「洗濯をたたむと10円もら
えるよ。」と教えてくれました。「そうかあ、お金をもらう
ためには働かなきゃいけないのかあ…」と気付いた子ども
たちは、「僕もお家で仕事してる。」「でも、うちはお金
くれんと思う。」「そしたら、真剣にお願いすればいいん
じゃない？」などの意見がでて、みんなでお家でお仕事を
して300円分の価値をもらってくることになりました。



た。保護者の皆様、3
00円分の価値の手

作りチケットをご用意くださり、子どもたちの真剣なお願いに応え
てくださりましてありがとうございました。

そして、晴れて、29日（金）に岐南工業高等学校の生徒さんと先
生がモーターを乗せる部品（土台もプーリーも3Dプリンターを活用
して手作り）とモーターを持って加納幼稚園にお越しくださいま

した。

急なお知らせにも関わらず、多くの保護者の方にもご参加いただき、ありがとうございました。大人
も真剣になってモノづくりに没頭する姿、骨組みだけでも
実際に電池を入れると動き出す様子に心を躍らせる子ども
も、実際に自分が作った車に、組み立てたモーター部品を搭
載し、本当に動いたときに見せる子どものこの上ない目の
輝き、どれも、唯一無二でした。きっと、この日のことは多



くの子ども
の記憶に
残ること
でしょう
。大人も
一緒にな
って夢中
になり、よ

うやくで
きたと喜
んで、い
ざ走らせ
てみると
、車がバ
ックしな
がら暴走
する姿に
思わず大
爆笑…「
大人も普
段使わな
い脳の部
分を使っ
て楽しか
った！」
とおっし
ゃってく
ださり、
子どもと
共に楽し
んでくだ
さったこ
とに心か
ら感謝い
たします。



《12月の保育について》

【3歳児】

〈ねらい〉

- 自分の好きな遊びを見つけて繰り返し楽しむ。
- 友達や大きい子のしていることに興味・関心をもってかかわる。

【4歳児】

〈ねらい〉

- 自分のしたいことで力を発揮し、友達と一緒に遊びを進める。
- 身近にあるものを遊びに取り入れて、自分なりに工夫して遊ぶ。

【5歳児】

〈ねらい〉

- 自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞き入れたりしながら遊ぶ。
- 友達と一緒にルールのある遊びを楽しんだり、遊び方を工夫したりする。



お知らせとお願い

○能登半島大雨災害義援金について

子どもたちや保護者の温かいご協力に感謝いたします。中には、自分のお小遣いから募金をしてくれる子どももいました。自分で箱の中にお金を入れる事が楽しくて、未就園児の子どもも一緒に募金してくれました。加納幼稚園の子どもたちと保護者、加納幼稚園教職員の温かいご協力を得て、ちょうど20,000円集まりました。

皆様からの気持ちは、日赤令和6年9月能登半島大雨災害義援金として振り込みましたので、日赤を通じて被災地に届けられます。

○家庭教育学級：「園長講話」について

12月4日（水）の9：20～家庭教育学級にて「園長講話」をさせていただきます。

「加納幼稚園がどうしてこのような保育を実践しているのか」、「なぜ探究心や創造力は大切なのか」、「未来に必要な力とは」などについて、時代背景や現代の課題を含めてお話させていただきます。きっと、伝えたいことが多くあり、時間が足りないのでは…と思われるので、後半は自慢の子どもたちのとびっきりの写真（スライドショー）をお届けしたいと思います。

ご多用中とは思いますが、是非ご参加くださいますと幸いに思います。心からお待ちしております。